

超臨界流体部会 第9回部会集会 議事録

日時 平成17年9月15日 18:00～20:00

場所 後楽ホテル(岡山市)

報告書作成者 栃木(日本大学) 辻(日本大学)

出席 50名

以下敬称略

栃木部会長(日大) 部会集会開会を宣言。議事進行は事務局辻(日大)が担当。

報告事項

1. 第4回サマースクール報告(資料1)

表記について参加人数、概要などが担当者の鈴木(産総研)から説明された。

2. 平成17年度会員数(資料2)

事務局辻(日大)から栃木部会長が9月15日12:00の幹事会での行った報告を会員に伝達した。

3. 秋季大会シンポジウム報告(資料3)

オーガナイザー古屋(産総研)より概要が説明された。展望講演として予定していた荒井教授(北大)が腰痛により急遽欠席された旨を説明した。

4. 化学工学<特集>化学工学年鑑2005(資料4)

編集委員猪股(東北大)より説明があった。第9章を部会が責任編集を行い、すでに原稿も集まって来月号に掲載されるとのこと。

5. 化学工学<トピックス>(資料5)

部会トピックス委員辻(日大)から説明があった。10月末の締切。これまで国際会議の参加についての報告が多く、編集部から改善意見が出されていたため、辻が近年の動向をまとめることにした。

6. 超臨界流体部会研究プロジェクト報告(資料6)

プロジェクトまとめ役松井(JBB ステビア研究所)から経過報告と協力の御礼がなされた。

7. 理事会報告（資料7）

部会編集委員船造（中大）より報告があった。「新化学工学の体系化」教科書作成が3月理事会で決定し、10月末に目次作成。詳細は追って会員に連絡とのこと。

審議事項

1. 平成18年度活動計画（資料8）

1.1 化学工学会第71年会

事務局辻（日大）より、次回年会ではシンポジウムは学会本部の意向により行わず一般講演のみとする旨が伝えられた。佐古副部長（静大）から、企業からの申込みを多くしたいとの提案があり、将来的にはサマースクールや秋季大会シンポジウムへ拡大する方針。今回は取り急ぎ10件程度としたいとのこと。了承。

1.2 第5回サマースクール担当者

事務局より従来どおり順番制とし、今回は反応WGの船造幹事（中大）をお願いする提案があり、了承。

1.3 部会シンポジウムにおける学生賞について

栃木部会長（日大）より2006年度から実施したいとの提案があり、了承。

1.4 共催行事

本件は議事資料8.4、8.5の2つがまとめてMTMS2006オーガナイザーである日秋（日大）から概要の説明がなされた。期間は2006.5.23～25、場所は幕張プリンスホテル。AICHEとの継続性、共催について了承。

1.5 GSC ネットワークより

本件について事務局猪股（東北大）より説明がなされた。昨年度は産総研の研究チームが受賞しているので積極的に応募して欲しいとのこと。

その他（資料9）

1. 7th World Congress of Chemical Engineering 2005 報告

辻（日大）より Glasgow, U. K. で7/10～14において行われた標記学会について概要報告がなされた。

2. 8th International Symposium on Supercritical Fluids

2006年 11/5-8 に国立京都国際会館で行われる標記学会の概要についてオーガナイザー

である後藤(熊大)より説明がなされた。

3. 会員異動(資料 10)

標記について事務局より説明があり、部会集会初参加の神尾(八工大)、後藤(日立電線)が紹介された。

荒井監事(九大)より報告、審議、その他終了を宣言。
懇親会開始。

佐古副部長(静大)部会集会閉会を宣言。